

**【定点調査】ウイルス・感染症への対策は定着、
新型コロナ流行下でも、おうち時間を快適で健やかに楽しみたい生活者
～花王 生活者研究センター調べ～**

2020年は新型コロナウイルスが流行し、緊急事態宣言にともなう外出自粛や休校、東京オリンピック・パラリンピックの延期など、様々な出来事のあった1年となりました。

花王株式会社「生活者研究センター」^(※1)では、新型コロナウイルスによる暮らしの変化について、2020年5月から2カ月ごとに、インターネットで定点調査を実施。感染症対策や新しい生活様式への対応など、生活者の意識・行動の変遷を調査データから振り返ります。

【主な調査結果のポイント】

- 「マスク」「手洗い」「手指の消毒」は定着化、「人混みを避ける」は夏から徐々に減少傾向に
 - 自宅でのその他の対策は「換気」「マスクや外出着の洗濯」が中心、「よく触る場所の除菌」は3割
 - 半数以上が「在宅勤務・リモートワーク」を経験、新たな働き方として定着傾向
 - 現金の受け渡しを避けられる「キャッシュレス決済」が普及
 - ステイホームを快適で健やかに、楽しく
-

【調査概要】

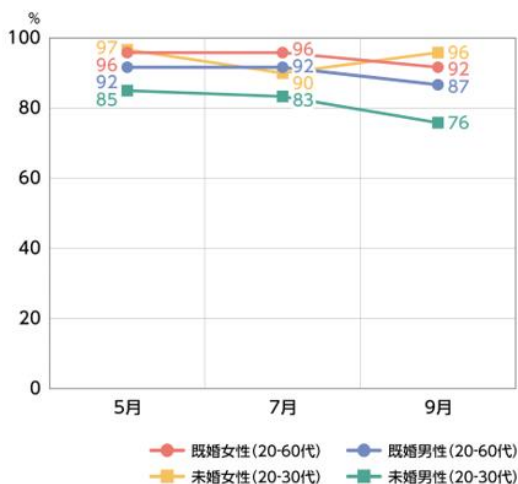
「生活者の意識と行動に関するインターネット調査」

- ◎2020年5月9日～12日／首都圏在住男女（20～60代既婚男女 各500人、20～30代未婚男女 各100人）
- ◎2020年7月29日～31日／首都圏在住男女（20～60代既婚男女 各500人、20～30代未婚男女 各100人）
- ◎2020年9月11日～13日／首都圏在住男女（20～60代既婚男女 各500人、20～30代未婚男女 各100人）

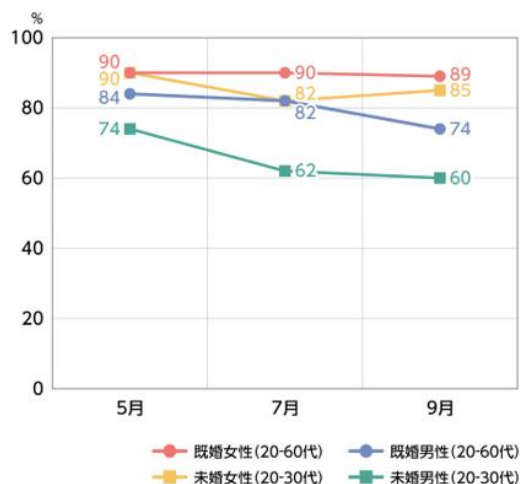
●「マスク」「手洗い」「手指の消毒」は定着化、「人混みを避ける」は夏から徐々に減少傾向に

5月から9月にかけての感染症対策の変化をみると、「外出時マスクを装着する」「帰宅後、石鹸やハンドソープで手洗いをする」「外出時に消毒殺菌剤やアルコールで手指を消毒する」は大部分の人が継続して実施。「外出時に消毒殺菌剤やアルコールで手指を消毒する」も一定の水準で推移しています。一方で「人の多い場所に行くことを控える」は7月・9月と徐々に下降。緊急事態宣言が解除され、通勤・通学などが段階的に通常の状態に戻りつつあることが影響していると考えられます。

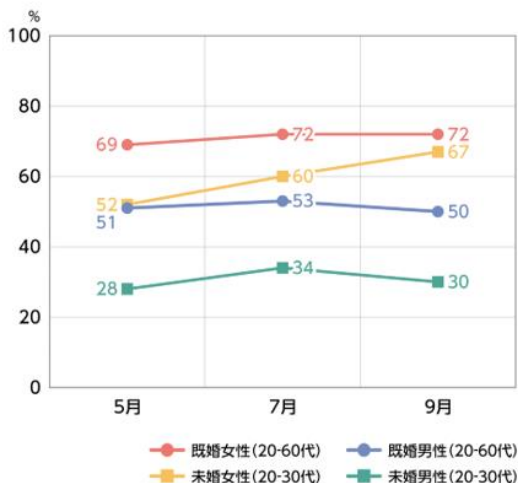
■外出時マスクを装着する



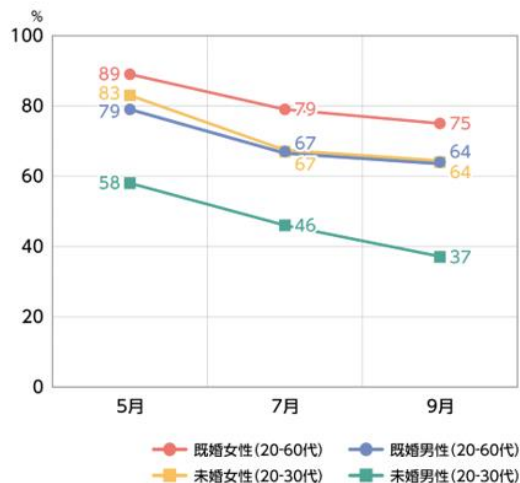
■帰宅後、石鹸やハンドソープで手洗いをする



■外出時に消毒殺菌剤やアルコールで手指を消毒する



■人の多い場所に行くことを控える



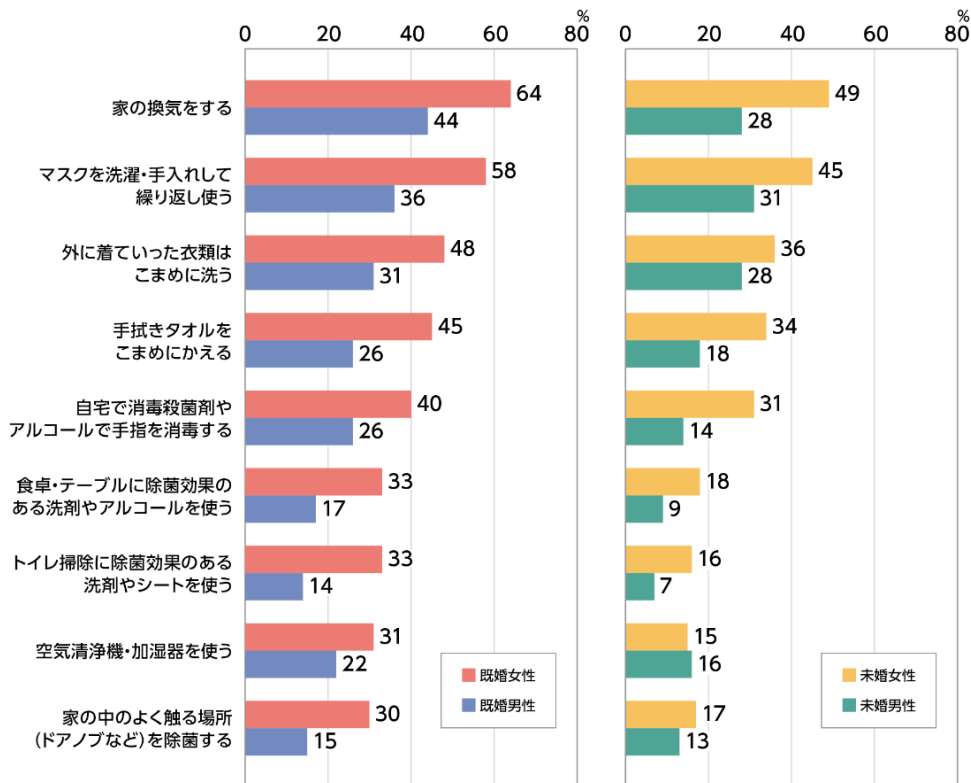
2020年5月/7月/9月 首都圏在住20～60代既婚男女 各500人
20～30代未婚男女 各100人
(花王 生活者研究センター調べ)

自分の住んでいる地域では感染があまり広がっておらず、マスクや手の消毒はしていますが、もう慣れてきたのでそこまで苦ではない。(20代既婚女性)

マスクを付けて、消毒をしっかりとしているし、他の人もマスクを付けて消毒を心がけている人がいるのであまり気にはならない。(30代未婚男性)

● 自宅でのその他の対策は「換気」「マスクや外出着の洗濯」が中心、「よく触る場所の除菌」は3割
 新型コロナウイルスの流行後、9月時点での自宅でのその他の対策としては「家の換気をする」が最も高く、次いで「マスクを洗濯・手入れして繰り返し使う」、「外に着ていった衣類はこまめに洗う」「手拭きタオルをこまめにかえる」などが高い結果となりました。また、当初から推奨されてきた「家の中のよく触る場所（ドアノブなど）を除菌する」は、既婚女性の3割が実施していました。

■ご家庭でこの1か月に起こったもの（抜粋）



2020年9月 首都圏在住20～60代既婚男女 各500人
 20～30代未婚男女 各100人
 (花王 生活者研究センター調べ)

「マスクを洗濯・手入れして繰り返し使う」は、緊急事態宣言前後の使い捨てマスクの品薄から、「布製マスク」が広まったことや、「マスクの洗い方」の情報も増えたことなどが影響していると考えられます。布製マスクは、手作りの楽しさや見た目のおしゃれ感はもちろん、暑い夏でもほぼ毎日マスクが必要となった「新しい生活様式」において、経済性やつけ心地の面でも歓迎され、定着してきたようです。

使い捨てだともったいなくなったので洗えるマスクにかえました。(40代既婚女性)

いろいろな色、柄、素材の布マスクを作っているので、服や帽子の色と合わせて選んでいる。(40代既婚女性)

母が作ってくれた手作りマスクは肌ざわりがよくニキビが減った。(30代未婚女性)

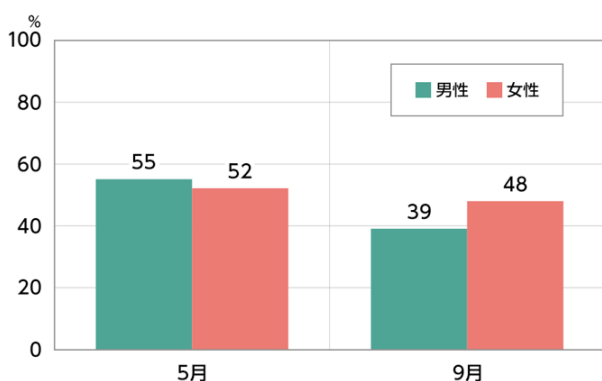
●半数以上が「在宅勤務・リモートワーク」を経験、新たな働き方として定着傾向

緊急事態宣言が継続していた5月は、フルタイム勤務者のうち半数以上が「在宅勤務」を経験。9月には、やや低下したものの、男性で約4割・女性で約5割となっており、新しい働き方として定着しつつあると推測されます。

在宅勤務経験者の反応をみると「今後も在宅勤務のある生活を続けたい」「時間を有効に使えるようになった」「仕事がしやすくなった」と歓迎する声が多くなっています。

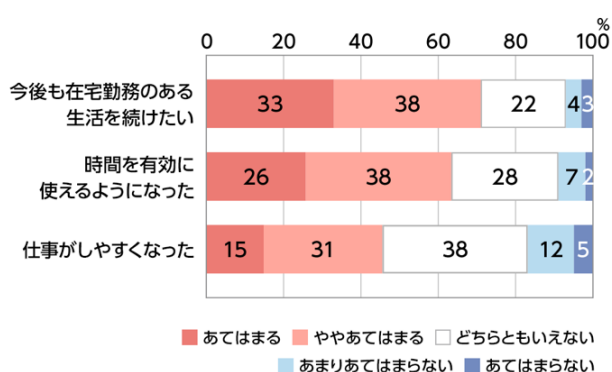
理由として生活者からは、通勤時間がなくなったことによる心身の負担軽減や、家族と過ごす時間・自分時間の充実などが挙げられていました。一方、2割弱の人が在宅では仕事がしやすくないとも回答しています。

■1か月に在宅勤務をした



首都圏在住フルタイムで働く男女
2020年5月(男性488人/女性158人)、9月(男性480人/女性139人)
(花王 生活者研究センター調べ)

■在宅勤務のある暮らしについて



2020年9月 首都圏在住「1か月に1日以上在宅勤務をした」男女293人(男性206人/女性87人)
(花王 生活者研究センター調べ)

通勤の往復3時間、メイクなどの出勤準備時間がかからなくなったので、すごく楽になった。コロナが終息してもできればテレワークしたい。
(40代未婚女性)

移動もなく効率的だが、人と会わない、外に出ないので、感じる力や想像力が鈍る感じ。生活リズムが乱れているようで、調子が悪い所もある。
(50代既婚男性)

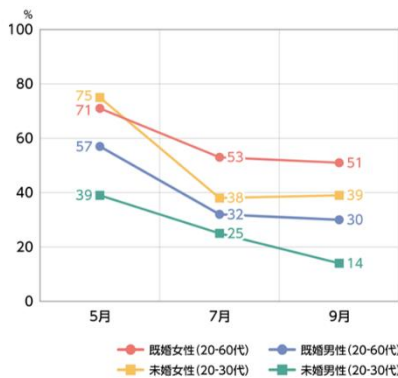
仕事の能率を上げるため家事との両立はそこそこ。趣味を戸外で始めた。
(30代既婚女性)

妻とのコミュニケーションが増えたから。
(30代既婚男性)

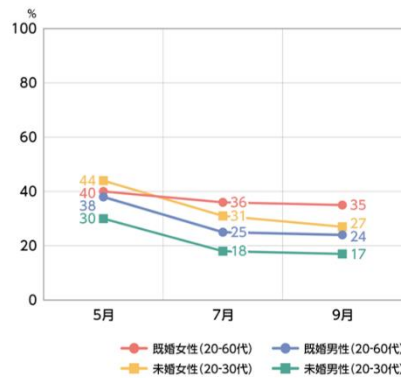
●現金の受け渡しを避けられる「キャッシュレス決済」の普及

緊急事態宣言下の5月は「店舗に買い物に行く回数を減らす」「ネット通販やネットスーパーなどを利用する」が高まりましたが、7月以降はそれらも低下、実店舗での買い物へ戻りつつあるようです。ただし、支払い方法は「現金の受け渡しを避けて、スマホ決済や電子マネーなどで支払う」が、女性では3~4割の水準で推移。消費増税にともなうキャッシュレス決済によるポイント還元は6月末で終了しましたが、キャッシュレス決済は利便性やポイント付与の魅力だけでなく、ウイルスとの接触機会の削減、買う側・売る側の双方の安心・安全を守る「新たな生活様式」として、生活者に受け入れられつつあるようです。

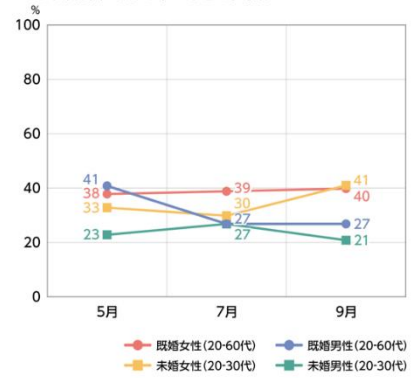
■店舗に買い物に行く回数を減らす



■ネット通販やネットスーパーなどを利用する



■現金の受け渡しを避けて、スマホ決済や電子マネーなどで支払う



2020年5月/7月/9月 首都圏在住20~60代既婚男女 各500人
20~30代未婚男女 各100人
(花王 生活者研究センター調べ)

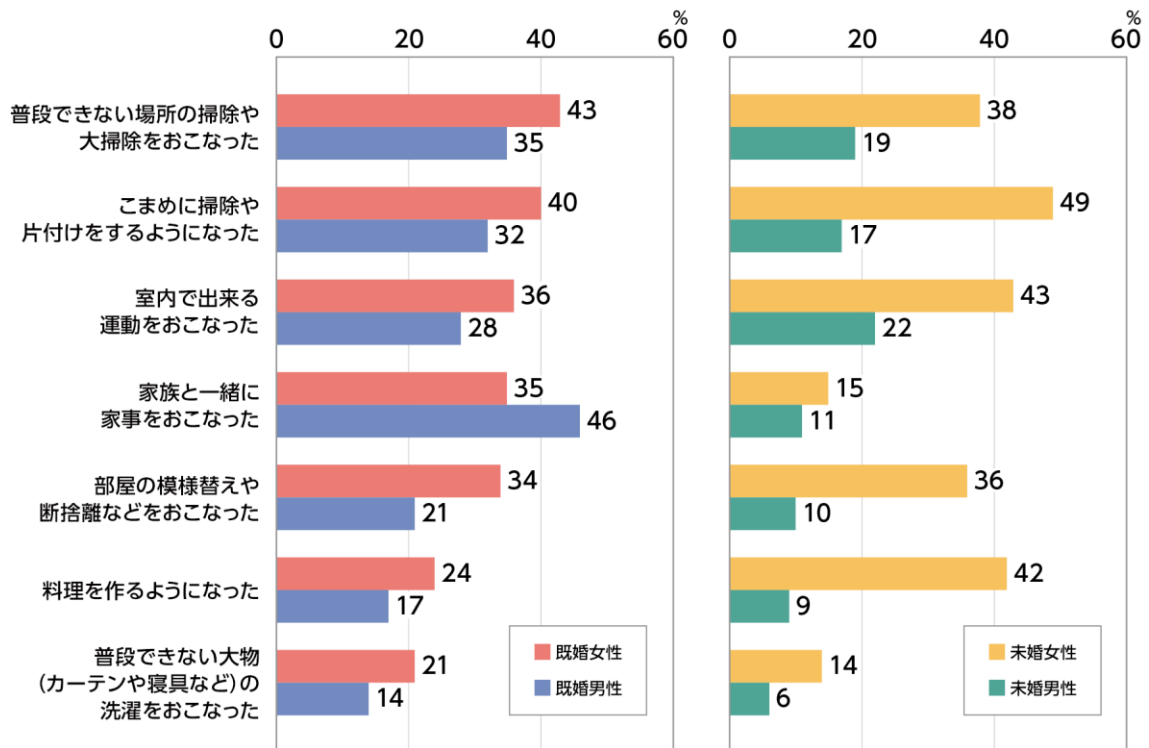
現金の場合、お金に菌が付いていたり、人との接触があるので、そうしたストレスがないキャッシュレスにする。(50代既婚女性)

現状では、圧倒的に現金による支払いが多いのですが、新型コロナウイルス対策として、キャッシュレスを徐々に増やしていきたいと思っています。自分も相手方も現金だと衛生面で不安に感じることも多いかと思います。(20代未婚男性)

●ステイホームを快適で健やかに、楽しく

外出自粛や在宅勤務によって、「ステイホーム（お家時間）」を快適に過ごすことへ関心が高まりました。「新型コロナウイルス感染症の流行後、家でやるようになったこと」としては、「普段できない場所の掃除や大掃除」「こまめに掃除や片付け」「部屋の模様替えや断捨離」などの家事に注力したり、「家族と一緒に家事」をすることで、家族で協力して住まいの居心地を良くしようとする人も多かったようです。

■新型コロナウイルス感染症の流行後、家でやるようになったこと



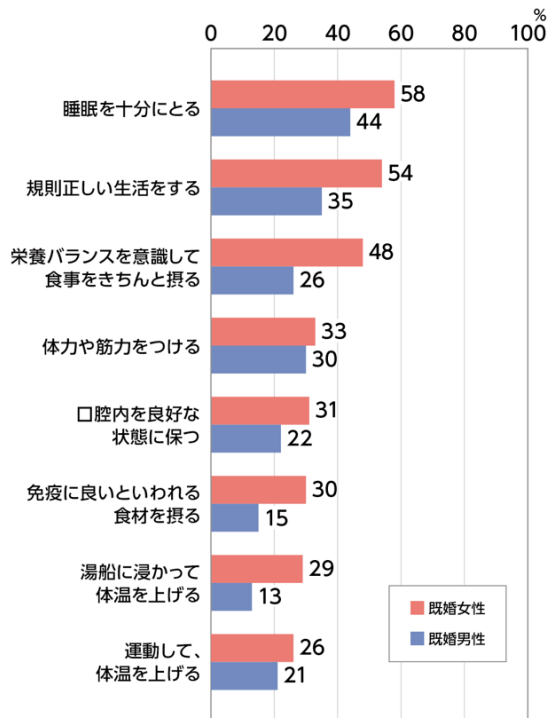
2020年5月 首都圏在住20～60代既婚男女 各500人
20～30代未婚男女 各100人
(花王 生活者研究センター調べ)

もともと寝るためだけの家だったけど、掃除洗濯を
ていねいにしておうちでの暮らしを豊かにしたい。
(20代未婚女性)

自宅で過ごす時間が増えて、自宅の快適さを求める
ようになりました。動線や片付けのしやすさをいろ
ろ考え直していきたいです。家でゆっくりと過ごす時
間も大切にしていきたいです。(30代既婚女性)

また、新型コロナウイルスに感染しにくい体を保つために、「十分な睡眠」「規則正しい生活」「栄養バランスを意識した食事」といった健康的な生活習慣の維持はもちろん、「体力や筋力をつける」「免疫に良いといわれる食材を摂る」「湯船に浸かって・運動して体温を上げる」などを実践している人もみられました。

■新型コロナウイルスに感染しにくい体を保つためにしていること



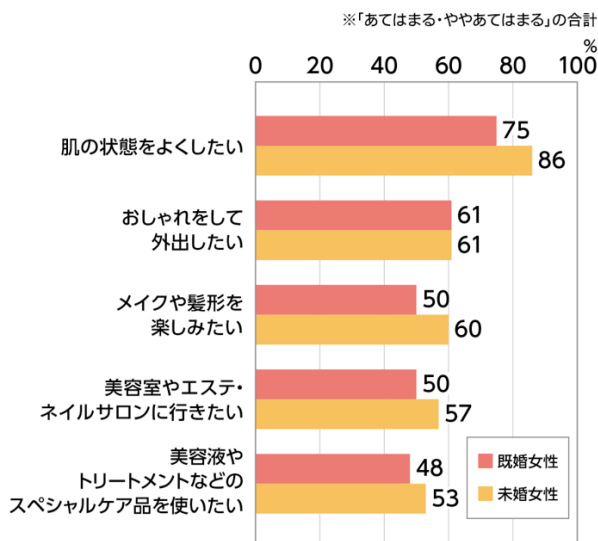
2020年9月 首都圏在住20～60代既婚男女 各500人
(花王 生活者研究センター調べ)

睡眠もしっかりと取り、極力毎日と同じリズムで生活するようにしています。一度リズムを崩してしまうと、元通りになるまで時間がかかるので今のリズムを大切にしています。(50代既婚男性)

ふだんできない肌の手入れや筋トレなどに時間を使っている。(30代既婚女性)

また、新型コロナウイルス流行前に比べて外出機会が減った状況は続いています。女性の間では、今だからこそ「肌の状態をよくしたい」「メイクや髪型を楽しみたい」と考えてマスクに合うメイクなどを工夫したり、いつかは「おしゃれをして外出したい」前向きな思いを持つ人も多いようです。

■美容への意識【女性】



2020年9月 首都圏在住20～60代既婚女性 500人
20～30代未婚女性 100人
(花王 生活者研究センター調べ)

マスクでも表情良く見えるように、目元をはっきりとさせ、チークを以前よりも、高い位置に入れています。(20代未婚女性)

これからもマスク必須な日々が続くと思うので肌(顔)のケアを今まで以上に頑張ろうと思った。洗顔料も「ニキビ用」に変えました!(40代既婚女性)

人に会う機会は減っても、お化粧やお洒落などの気持ちは持ち続けたい。(40代既婚女性)

詳しくは以下 URL をご確認ください。

▶ 暮らしの研究「特集」

www.kao.co.jp/lifei/feature/567_1201/

(2020年12月掲載)

＼ご家庭の菌・ウイルス対策のお役立ち情報も発信中／

花王生活者研究センターが運営する「暮らしの研究」サイトでは、おすすめの効果的な除菌対策や、毎日無理なく続けられる“ちよこっと掃除”のポイントなど、生活者に役立つ情報も発信しています。



家庭でできる菌・ウイルス対策
～効果的な除菌・手洗い方法～

www.kao.co.jp/lifei/feature/jokin/



お掃除のニューノーマル 1
汚れも菌も！毎日のちよこっと掃除

www.kao.co.jp/lifei/support/85/

※1 花王株式会社「生活者研究センター」 www.kao.co.jp/lifei/about/

「生活者研究センター」では、花王グループの使命である「よきモノづくりを通じて人々の豊かな生活文化へ貢献すること」の実現をめざし、生活者一人ひとりの暮らしを見つめた生活者研究をおこなっています。生活現場での観察と対話を重ねながら、行動に表れない本音、説明できないこだわりなど、行動の裏にひそむ「おもい」まで読み解いて、課題を発掘し、商品やコミュニケーション開発に活かすとともに、生活者研究のウェブサイト、花王「暮らしの研究」から、広く社会に発信しています。

花王「暮らしの研究」 www.kao.co.jp/lifei/